「三つの生き方」ヘブル６：１－１０　　１８・８・１２

Ⅰ　ずっと神を拒み続け、主を信じない人生→

その人の生涯に与えられるものは＝

「人間には、一度死ぬことと死後にさばき（主を信じない人には永遠の滅び）を受けることが定まっている」ヘブル９：２７。

この滅びから救うために、主は、すべての人の為に十字架で死なれた。

さあ、まだ間に合ううちに、この主イエスを信じよう！

神のご愛と恵みを無駄にしないように。

主を信じて主に拠り頼んで生きる人生は、最高の人生です！

Ⅱ　一度、真の神を信じ恵みを味わった後に、神から離れる人生。：４－８。

１．基礎的なことを再びやり直す生き方。：１－３。

これは、少し、手紙の背景の説明が必要である。

私達、日本人にとっては、基礎的な事をやり直す事は、悪い事ではない。しかし、ここのヘブル（ユダヤ）人にとり基礎的な事とは、ユダヤ教的な事と関係があり、せっかくキリスト教に回心したのに、彼らにとって基礎的な事＝ユダヤ教的な事に逆戻りする危険を意味していた。

しかし、聖書が基盤にない日本人の私達にとっては、基礎的な事を学ぶ事は、とても大切なので、内容を確認したい。

①「死んだ行い（自分の行いで救われようとする行い、見せかけの善行、殺人、姦淫、淫らな行い、盗み、偶像礼拝、魔術、占い、偽証、高慢、ねたみ、悪口、嘘）からの回心（神への方向転換。神の力による罪の行いとの決別）」：１。

主は、罪の赦しだけではなく、罪から離れ神に近づく新しい命を下さる！

②「神に対する信仰」＝私達を奴隷にしている死んだ行いと手を切るだけでは不十分。回心、悔い改めと表裏一体をなしている積極面がある。それが、「神に対する信仰」である。

キリスト者は、死んだ行いから離れると共に、人生の案内人であり、ご主人であり、魂の救い主である神に、自分を委ね明け渡す（それが、「信じる」の意味）。

その時、神は、神の喜ばれる人生を生きる力と愛、聖さを与えられる。

③「きよめの洗いについての教え」：２＝「洗い」とは、バプテスマ、洗礼のこと。

ヘブル人の間では、さまざまな洗い、きよめの儀式が行われていたので、「キリストとの霊的な結合、キリストの体なる教会への加入」のしるしとしてのキリスト教の洗礼について教えられる必要がある。初代教会において洗礼の志願者は、何を信じ、どんな生活をすべきかを十分に教えられていた。

④「手を置く儀式」＝按手。

ある人の頭に、神に立てられた人が手を置き、祈りを通して、神よりの賜物、力が与えられる儀式。また、神の働きに、ある人が任命され、送り出される時に行われた儀式

（使徒６：６、８：１７、９：１２，１７、１３：３、１９：６）。

⑤「死者の復活」：２。

私達にとって、希望は生きる事に欠かせない霊的な酸素。

キリスト教にとり、復活の希望は、本質的な恵み。

主は、十字架で死なれたままではなく、復活され、主を信じる私達に復活の命を与えて下さる！

旧約聖書も（詩篇１６：１０、４９：１５、イザヤ２６：１９、ダニエル１２：２）、

主も（マルコ１２：２６～）、

パウロも（Ⅰコリント１５章）復活を重視していた。

⑥「永遠のさばき」：２。

世の終わりに主が再臨され、すべての人が神の御前に出て正しい裁きを受ける総決算の日。公平なさばき、公にされなかったことも明るみに出される日。

私達は、眠る前に、日々、Ⅰヨハネ１：９の御言葉に信頼して１日の罪を神に告白し、主の十字架の恵みで赦されて眠りにつきたい。これらの基本的な教理は大切だが、そこで、成長がストップしてはいけない。

「成熟を目指して進もうではありませんか」：１。

２．：４－８。堕落して神に立ち返らない生き方。

私達信者への愛の警告。よく４節から８節を読もう。

誰も強い人はいない。この手紙の対象のヘブル人の中にも信仰を捨てる者や、ユダヤ教（主の十字架ではなく、自分の行いにより救われようとする）に逆戻りする者もいた。

ある調査によると、日本では、洗礼を受けた後に信仰から離れる人々の比率は、５０％以上にも上ると言われている。他人事ではない。

そんな中で、弱い私達が、今まで信仰を続けられたのは、神の一方的な憐み、恵みであり、主の大祭司としてのとりなしのおかげである。主から離れやすい弱い私達を助け、主の御姿への成熟に導くのは、日々の御言葉、祈り、主の花嫁なる教会への出席、礼拝、分かち合い、祈り合う交わりである。

６節の御言葉は、解説が必要である。

これは、罪を犯し、主から離れた人は、もう、悔い改めたり、神に赦されたりすることは、出来ないという意味ではない。「堕落してしまう」とは、罪を犯しても少しも反省しようとせず、故意に罪を犯し続け、赦しときよめを得る為に、その罪を正直に神に告白しようとしない状態の事である。

だから、私達に、どんなに大きな罪があっても、神にその罪を告白し、おわびするなら、赦される。

主の十字架で私達の罪の償いが完成されている故に、また、父なる神の大きな愛と憐れみの故に！

ハレルヤ！

それ故に、主が再び来られる前に、間に合ううちに、自分の罪を告白し、神に立ち返ろう。神は、御手を広げて待っておられる。

Ⅲ　神を信じ、何度失敗しても悔い改め続け、愛され続け、神と人に仕え愛を示し、生涯、主を信じ続ける人生。

１０節の人生。

「神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れたりなさいません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました」：１０。

この御言葉には、弱い私達が、困難な中（世からの迫害、世の不公平、矛盾だらけの世、報われない扱い等でも失望せず、真の信仰を続ける為の励ましがある。

①神は、すべてを見抜き、公平にさばかれる正しい方。

②私達の告白した罪は忘れて下さり

（「わたしは、もはや　彼らの罪と不法を思い起こさない」ヘブル１０：１７）、何と私達の愛の働き、奉仕は、忘れないお方。喜び報いて下さる。何ともったいない恵みだろう！

③「聖徒たちに」。

まず身近な教会の兄弟姉妹を愛せる人になる時、遠くの人、隣人を愛せる人にして下さる。

④「今も」。

「以前は良くやったが」ではなく、今の状態も大切。年齢とともに奉仕のあり方も変わる。神はご存知。無理をしないで、喜んで、やれる分をやる事を喜ばれる。肉体が動かなくても祈りの奉仕がある。

⑤「仕える」。

主が喜ばれるのは、へりくだりであり、仕える奉仕。「してやっている」ではなく「させていただいている」の感謝の心が大切。

⑥「神の御名のために」。

自分の栄光ではなく、神の栄光の為の純粋な動機の愛。

⑦「愛を示しました」。

まず神が、私達への愛を示された。その大きな愛を受けて、神と隣人に愛を示したい。神は、あなたの小さな愛も覚えておられる。神は、私達のすべての愛を見ていて下さり、喜び、神の時に報いて下さる。

「あなたがたの働きや愛を忘れたりなさいません」：１０。